

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課長 前島 和弘	電話番号	0852-22-5173
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	造林事業
目的	(1) 対象 森林所有者
	(2) 意図 森林所有者に木材生産、水源かん養、県土の保全など森林の持つ多面的機能を発揮させる森林の整備を促す。
事業概要	「伐って・使って・植えて・育てる」循環型林業のため、適正な森林造成を計画的に推進し、造林事業を実施したのに対し補助金を交付することにより、森林の有する多面的機能の高度発揮と山村の振興に資する。

2. 成果参考指標

(1) 指標名	生産団地内の搬出間伐面積	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		900.00	900.00	900.00	950.00	
式・定義	生産団地内の搬出間伐面積（造林事業＋森林整備加速化事業等）	実績値	619.00	994.00	979.00	1,059.00		
		達成率		110.40	108.80	117.70		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00	0.00		
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
		達成率		0.00	0.00	0.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,958,512	1,770,304
うち一般財源(千円)	244,779	227,147

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

・平成26年度における木材生産団地内での搬出間伐実績は、造林事業で930ha、加速化事業で129haの合計1,059haであった。
 ・搬出間伐のほか、平成26年度の造林補助事業で支援した主な施策実績は、人工造林174ha、下刈り736ha、除伐・保育間伐1,239haであり、人工造林の作業面積は前年度に比べて18%増加している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

造林公共事業や森林整備加速化・林業再生事業などの有効活用を森林所有者等に積極的に働きかけた結果、目標値を上回る搬出間伐が実施できた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・平成27年度の造林補助事業については、要望に対する国からの配分は全国平均60%程度で森林整備に係る予算が不足している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・公共事業予算の変動（縮減）が激しい。
 - ・木材生産の拡大に伴い、再造林・保育の必要がある森林面積が増加し、今後も造林事業費が増加していく見通し。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・造林コストの縮減や追加支援により、森林所有者の負担を軽減し、森林整備への意欲を喚起することが必要

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・森林整備の低コスト化を図るため、施業地を集約化し、路網整備や高性能林業機械の導入を推進する。
- ・再植林の低コスト化を図るため、苗木の低密度植栽や伐採と造林を同時期に行う一貫作業等を推進する。また、造林補助事業と合わせて新植支援事業により追加支援し、森林所有者負担を軽減する。
- ・低コスト化に対する事業者の意識喚起を図るため、低コスト施業研修会の開催や低コスト化への取り組み状況に応じた予算配分方法の検討も必要

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）